

〔平成26年度明専スクール〕

考えるきっかけ

工学府電気電子工学専攻M2 野口 翼



私にとって明専スクールは

明専スクールに参加した後、研究室の教授や友達に「どうだった？明専スクール」と聞かれました。その時、初めに出た私の言葉は「考えるきっかけになった」です。明専スクールでは、講義やグループ討議、懇親会を通して、今後の社会人になる自分の立場、役割、責任について深く考えることができました。普段の学生生活の中では学べないことを学べ、この明専スクールに参加してよかったと実感しています。

では明専スクールでどのようなことを学んだのか。その内容と所感を一部伝えたいと思います。

真つ赤な出張報告書

1日目に大手企業で活躍している先輩方の講義を受講させていただきました。その後私たちに出された課題が「出張報告書の作成」です。私は学校のレポートを出す時のような気持ちで仕上げ、提出し、問題はなだらうと思っていました。しかし添削されて返ってきた報告書は添削箇所が多すぎて真つ赤。自分がいかに甘かったかを自覚できました。また会社にはどのように伝えるとよいかを考えるきっかけとなりました。添削は少々辛口ではありましたが、1つ1つ非常に丁寧にしていただけていて、先輩方の「これを機に伝え方を学んでほしい」という想いが伝わってきました。

リーダーとしての立ち回り

2日目、3日目は、7名程度のグループに分かれてグループ討議をしました。討議のテーマは「今一度企



グループ討議の様子

業を考える」というもので、企業の存在意義や会社に入ることの意味を考えることでした。

私はグループのリーダーとなりましたが、議論を結論へと導くことになり苦労しました。リーダーは議論の方向性がずれたときに、うまくそれを修正しなければなりません。しかし初めはこれがなかなかうまくいきませんでした。議論が滞らないようにすることに意識が集中してしまい、議論が発散しがちになっていました。そんな時、先輩から「時には半ば強引にでも議論の方向性を正さないと」と注意を受け、それがリーダーとしての立ち回り方を考えるよ

いきつかけとなりました。

懇親会

3日間の充実した内容の明専スクールの中で、最も楽しかったのは懇親会です。1次会が中村記念館で行われた後、仙水荘で3次会まで行われました。先輩方は仕事の話だけでなく、自分が学生だった時の話などもして下さり、同じ大学の先輩という距離の近さを感じました。今後この明専会のつながりを大事にしていきたいです。

(新日鐵住金株)

(平成27年1月記)



懇親会の様子